

【一】 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

健康や食べ物は、わたしたちにとつても身近な「科学」です。体によいとか悪いとか、どうすれば健康を保てるとか、医療技術の進歩など、健康に関する科学の知識だけでも繰り返し新しい理論、技術、考え方、素材が生まれ、その成果は暮らしに反映されます。簡単に言ってしまうと「説」は変わるもの、なのです。

A 小学校のころ、虫歯の日（六月四日）のある六月になると歯科衛生士による歯の磨き方講習がありました。その日は歯ブラシを持参。講習の内容はおおむね次のようなものです。

まず、虫歯をほうっておくとどんなに痛いか、体全体にどんな悪影響を及ぼすかという内容の紙芝居などを見せられ、それが終わると歯の磨き方の指導です。歯ブラシの持ち方、動かし方、歯のどの部分を重点的に磨くときよいか、その時間、歯磨きペーストの量などについて細かく説明を受けます。

「毎年毎年、同じことを……」

わたしはこの時間が好きではありませんでした。ところが……。

あるとき、内容が変わったのです。

歯ブラシの動かし方は、去年までは上の歯の場合は歯ブラシを上から下へくると回転させるように、下の歯は下から上へ縦に動かし横に動かしてはいけないという内容だったのに、その年は、「そのやり方では、歯垢を落とすことができません」と言うのです。そして、歯と歯茎の間に毛先を当てて細かく横に動かすように、と。

変更の説明はありません。いったいどちらが正しいのでしょうか。どちらも正しくないのではないか……。

このようなことはほかにもあつて、以前は、運動中には絶対に水は飲んではいけないとされていたのが、いまでは、むしろ、こまめに水分を摂ることが望ましいと言われるようになりました。マラソンレースの給水シーンは、おなじみの光景です。

ダイエットをしたことのある人はいますか？ ダイエットとはいえないまでも、脂肪分の摂取量を気にしている人は多いと思います。脂肪の中でも「コレステロールは体に悪い」「リノール酸は体にいい」というのはほぼ常識のように語られています。

一九六〇年代半ばごろから厚生省（当時）は、コレステロールは高脂血症や動脈硬化など生活習慣病（当時は、成人病と呼んでいました）を引き起こす原因となるという考え方を示しました。それ以来コレステロールの増加を抑えるため動物性脂肪の摂取を控え、また、リノール酸をたくさん摂りましょうという栄養指導をしてきました。リノール酸は、必須アミノ酸のひとつでわたしたちの体の中でつくり出すことができないため、食べ物などから摂取しなければならない栄養素です。リノール酸は、コレステロールを減少させる働きがあると考えられていたからです。「油、特に

コレステロールは健康の敵、でもリノール酸ならOK」。こうしてリノール酸を多く摂取するための商品が店頭に並びました。いまでもスーパーマーケットの食用油の売り場では、大きく「リノール酸」と書かれたラベルの商品を目にします。一般の人々に「コレステロール、動物性脂肪はダメ、リノール酸はマル」という図式が信じ込まれていても不思議はありません。コレステロールを抑えるというのは、健康に、特に生活習慣病を気にしている人には、鉄則のように受け入れられてきました。

ところが、リノール酸を摂取しても、長期的に見て血中コレステロールを下げない、それどころか、アレルギーや炎症を促進する作用があるという研究結果が、名古屋市立大学教授奥山治美氏によつて出されました。リノール酸を摂りすぎると、ぜんそく、花粉症、アトピー性皮膚炎などを起こしやすくなり、リノール酸ばかり摂取している食生活には問題があるというのです。その研究では、リノール酸の多い食べ物を少なくして、アルファ・リノレン酸の多いシソ油などを使用すると皮膚炎が改善すると報告しています。

ではなぜ、当時の厚生省はリノール酸がコレステロール値を下げると判断し、国民にそれを薦めたのでしょうか。報告では、リノール酸を一週間ほど使っていると、コレステロール値は下がるものの、その後数年間使い続けるとその効果はなくなり、逆にコレステロール値が高くなると伝えていきます。コレステロール値とリノール酸の関係をほんの短期間調べた結果をもとにして政策を推進してきたためであると結んでいます。

政府や自治体の政策が及ぼす影響はとても大きいのです。人の意識や健康、医療、企業（この場合は主に食品メーカー）の戦略や商品開発、原料を生産する農家や加工、流通にかかわる人たちが、宣伝に伴うさまざまな経済活動への影響ははかりしれません。メーカーは「リノール酸がコレステロールを下げる」と売り込みをかけるでしょうし、そのための研究活動も盛んになり、新たな商品が開発されコマースシャルでも連呼します。健康を題材にしたバラエティー番組もこぞつて取り上げ、おなじみのタレントが大きい声で繰り返します。地域の保健所の栄養指導でも保健師などがリノール酸を摂るよう、指導します。

実際に油を食べるのは、わたしたちの体です。政策が変わったから、違う研究結果が出たからと言って、自分の体を取り替えるわけにはいきません。わたしたちは、あふれる情報の中から本当に必要だと思われる、「正しい」食べ物を見つけなければなりません。「ほんの一週間ほどの実験結果で政策が決定されていたなんて、知らなかった!」「それに対して三〇年以上の間、反論が出ていなかったなんて、科学者は何をしていたの?」「疑わしいという論文が出たことも、だれも知らせてくれなかった!」「だれかに抗議したい気持ちですが、わたしたちが、「リノール酸がよい」という情報を疑いなく受け入れて来たことにも問題はあつたでしょう。とはいえ情報源にあたり、実験の過程やそれに対する反論などを自分の力で調べる、というのはとてもたいへんなことです。

この問題に関してどの研究結果が正しい、という結論を出すのには、まだしばらく時間がかかるでしょう。もしかしたらどの結果も間違いである可能性もあります。だれもウソを言おうと思つた人はいないのでしょうか。「正しい」という基準、「これがよい」という根拠は、立場や時代、時間の経過、専門家の考え方、新しい研究結果、経済的な力関係などによつて、変わることがあります。この事例からわかります。もしかしたら、「最新

の研究結果」も何年かあとには……。また、この結果だけを見てリノール酸がいいとか悪いとか単純には判断できません。体質や生活習慣、環境などさまざまな要素が影響し合って結果が現れるのですから、広い視野でものを見る必要があります。身の回りにある情報すべての根拠を自分で確認するというのは、とてつもなくたいへんですが、情報に触れるときに日ごろから「どうか、「根拠はなんだろう」と少しでも感じたり、考えたりすることはとても重要なことだと思います。研究結果や政策がどう変化しようとも、歯を磨くのも、水を飲むのも、油を使うのもわたしたち自身。わたしたちの体は一つしかないのですから。

(佐倉統／古田ゆかり『おはようからおやすみまでの科学』(筑摩書房 より))

問一 ― A・Bの意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A「おおむね」 B「こぞつて」

ア ちようど ア 次々に

イ たとえば イ すぐに

ウ いつも ウ みんな

エ だいたい エ 競つて

オ やはり オ 喜んで

問二 ― 1「体によいとか悪いとか、どうすれば健康を保てるとか、医療技術の進歩など、健康に関する科学の知識だけでも繰り返して新しい理論、技術、考え方、素材が生まれ、その成果は暮らしに反映されます。」とありますが、このことに関して筆者があげている例を三つ、それぞれ十五字以内でまとめなさい。(字数には句読点などもふくみます。)

問三 ― 2「コレステロールの増加を抑えるため動物性脂肪の摂取を控え、また、リノール酸をたくさん摂りましょうという栄養指導をししてきました。」とありますが、「リノール酸をたくさん摂りましょうという栄養指導」がなされることになったのは、どういう理由からだと奥山氏は批判していますか。本文中から五十字以内でぬき出しなさい。(字数には句読点などもふくみます。)

問四 ― 3で、「正しい」と、かきかっこをつけているのは、どうしてですか。

問五 ― 4「何年かあとには……。」とありますが、この「……」に当てはまる表現を考えて、二十五字以内で答えなさい。(字数には句読点などもふくみます。)

【二】 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

秋の透明な光を受けて、川面はきらきらと輝いていた。その川の流がどんどん細くなって、やがて消えていくあたりに青くかすんだ山並が続いていた。ああ好きだなあ、こんな風景、と思わずつぶやきながら、あかねは草に仰向けに寝ころんだ。薄い真つ青なヴェールのような空が一面に広がっている。どこにも継ぎ目のない一枚の布のような空。天女の羽衣というのも、どこにも縫い目がないということはどこかで聞いたような気がする。天女って、天使と同じ仲間なのかしら。天使っていうのは、体がないとどこかで聞いたけど、体がないってどんな感じがするのかなあ。体がなければ、目も耳もないはずなのに、絵本に出てくる天使にはちゃんと目も耳も、それに羽根までもついている。それでも、天使の目や耳は、わたしの目や耳とは、どこかで全然違うのだろう。それなら天使の心も、わたしの心とはまったく違ったものなのかもしれないな。

どこかでモズが鳴いている。

① あかねは、ため息をついた。わたしも天使の心がほしい。それがどういふものか知らないけれど、でも、わたしの心とは全然違う心がほしい。お母さんも、おばあちゃんも、天使の心を持てるいいのに。そうしたら、こんなことにはきつとならないだろう。

あかねの父が心筋梗塞という病気で突然亡くなってから四年が過ぎた。あの時はただわけもわからず泣いてばかりだったあかねも今は小学校五年生になったけれど、あかねの生活はそのときを境に大きく変わってしまった。東京近郊のT市の家売り払い、あかねの母の実家のある長野県M市に引っ越した。あかねと母と祖母の女三人の生活がそれから始まったのだ。

初めのうちは何だか楽しかった。優しくあったけれど神経質で細かいことまで口を出してくる父はいないし、母もそういう父から解放されて自由で暮らせるようになったことをむしろ喜んでるようにさえ見えた。祖母も、それまで一人暮らしだったので急に家族がふえてにぎやかになった喜びを隠そうとしなかった。それなのに、いったいどこから歯車がくるってしまったのだろう。最近では、母と祖母の言い争いが絶えない。いったいどういふことで争っているのか、あかねはそのたびに聞き耳を立てるのだけれど、肝心のところにくると、急に二人の声が低くなってしまつて、どうしても聞き取れないのだった。そしてしばらく沈黙が続き、小さな泣き声が聞こえてくる。それが母なのか祖母なのかすらわからない。

「ねえ、お母さん。」あかねはあるとき母に聞いてみた。「どうしておばあちゃんと仲良くできないの？ 前はあんなに仲良しだったじゃないの。あかねにはどうしてもわからない。」

母は、いつもの優しさとはうって変わった厳しい顔をして、「そんなことないわよ。おばあちゃんとは今でも仲良しじゃない。つまらない口出するんじゃないの。子供のくせに。」と吐き捨てるように言った。

「うそ。あかねはもう子供じゃないんだから、ちゃんと話してよ。ひよつとしたら相談にのれるかもよ。」

1 あかねはわざとおどけて言った。けれども母はそんなあかねに気づくふうもなく、眉間にしわを寄せながら言った。

「生意気なこと言うんじゃないの。あなたに相談できるくらいなら、何も苦労はないわ。」

「ほら、仲良しなんてうそじゃない。」

「何言ってるの。仲良しよ。」

「うそ、うそ。お母さんって、わけわかんない。お父さんが死んだときはあんなに泣いたのに、今はちっとも泣かないし。」

「何言ってるの。あなたなんかにはわかってたまるものですか、お母さんの気持ちなんて。生意気言わないでよ。」

母は泣き出した。

③ あかねは外へ飛び出した。腹がたつてならなかった。母に対する怒りももちろんあった。と同時に、自分に対する怒りもあった。秋の空の下を、あかねがむしやりに走った。

大人には子供のわからないことがあるらしい。自分は母とは仲良しだと思っている。だってあかねは母のことが大好きなのだ。その大好きな母を助けてあげようとしたのに、母を怒らせてしまった。なんだかこのままだと母のことが嫌いになってしまっただ。そうしたら、母と祖母のように、毎日母と喧嘩ばかりするようになってしまっただろうか。好きなのに、どうして喧嘩をすることになってしまっただろう。

なんだか人間って変だなあ。あかねはゴロンと体を回転させて草の上に顔を押しつけた。湿った土の匂いと、どこか甘ったるい草の匂いが混じり合って鼻の奥をくすぐる。そのときあかねは急に土の中を想像した。様々な草の根が複雑にからまりながら、真つ暗な土の中をどこまでも伸びていく。そこにくぐめく様々な虫たち。目にはみえない微生物の群れ。わたしの心もこうなのかしら。こんなにも複雑なわけもわからないものによって埋めつくされているのかしら。そして母も、祖母も。わからない、わからない。でも、母と祖母が、仲良しなのに、仲良しではない、というのは、ひよっとしたら、こういうことが原因なのかもしれないな。そうだとしたら、わたしになんか、どうすることもできない。ああ、人間っていやだ。

④ あかねは再び仰向けになった。あの空のどこかがびりりと破けて、何かとんでもない恐ろしいものが流れ出してくるのがあるだろうか。あかねはそんなことを思った。そんなことあるはずはない。空はどこまでも透明で、純粹で、そのまま宇宙の果てまでつながっているんだと先生が教えてくれた。それはきつと本当のことだろう。いや本当のことであることをあかねは切ないほどに願った。

一匹の赤トンボが秋の空を背景にして空中に静止していた。すてきな赤トンボ。まるで天使みたいだ。軽やかで、すばやく、重さなんてないみたい。そうだとボつて、絶対に天使なんだ。あかねは、草の上に重い体を起こした。遠くの山並がさつきよりも近く見えた。

(本文は本校国語科による)

問一 1 「あかねはわざとおどけて言った。」とありますが、なぜ「わざとおどけて言った」のでしょうか。

問二 2 「自分に対する怒り」とありますが、それはどのような怒りだったのでしょうか。

問三 3 「すてきな赤トンボって。」とありますが、あかねはなぜそう思ったのでしょうか。

問四 (1) A 「わけもわからず泣いてばかりだった」の「ばかり」とほぼ同じ意味のものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 彼は自分に得なことばかり考えている。

イ 彼は泣きださんばかりの表情になった。

ウ 彼は立ち直るのに二日ばかりかかった。

エ 彼は今だとばかり勢いよく攻め立てた。

(2) B 「むしろ喜んでるようにさえ見えた。」の「ように」とほぼ同じ意味のものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 眠くならないようにコーヒーを飲んだ。

イ 彼女の病気が早くよくなりますように。

ウ 世界平和について考えるようになった。

エ 雪の上をころがるように走っていった。

問五 ①～④を時間の順序にしたがって並べかえるようになりますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ③—②—①—④ イ ①—④—②—③ ウ ①—③—②—④ エ ②—③—④—① オ ②—③—①—④

【三】 次のカタカナの部分の漢字に直しなさい。

- | | | |
|-----------------|---------------|--------------|
| 1 長年のコウセキをたたえる。 | 6 カンラン車にのる。 | 11 学問をオサめる。 |
| 2 災害からフツコウする。 | 7 イツキョにせめる。 | 12 医者をココロザす。 |
| 3 新聞をヘンシュウする。 | 8 飛行機がケツコウする。 | 13 お金をアズける。 |
| 4 青森にキキョウする。 | 9 カモツ列車で運ぶ。 | 14 失敗をユルす。 |
| 5 カンダンの差がはげしい。 | 10 防災クンレンをする。 | 15 人々をヒキいる。 |